

2025 年 3 月 18 日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社日本ケーブルテレビジョン

2024 年度 CNNj 番組審議会議事録

- 開催年月日：2025 年 3 月 18 日
- 開催場所：株式会社日本ケーブルテレビジョン第 2 会議室
- 参加者 審議委員総 8 名
出席委員数 8 名

(委員)

- 委員長 小西 克哉 (国際教養大学大学院客員教授)
委員 大宅 映子 (評論家)
委員 石川 次郎 (編集者 (株)ジェイアイ社長)
委員 吉永 みち子 (ノンフィクション作家)
委員 国府 弘子 (ピアニスト・作編曲家)
委員 パトリック・ハーラン (パクソン) (タレント)
委員 音 好宏 (上智大学文学部新聞学科教授・メディア研究者)
委員 菊間 千乃 (弁護士)

(衛星基幹放送事業者：(株)シーエス・ワンテン)

代表取締役社長 福田 泉
編成局長 中口 裕丈

(番組供給事業者：(株)日本ケーブルテレビジョン)

代表取締役社長 川島 保男
常務取締役 (メディアビジネス局担当) 山本 陽一
メディアビジネス局長 野並 宏康
メディアビジネス局メディアビジネス戦略部長 黒川 正明
総務局長 鈴木 正市
総務局人事・総務部長 城戸崎 ゆり

4. 報告事項

事務局より前委員長および委員 1 名が退任し、それに伴い、新たに 2 名の委員が就任した旨の報告があった。その後、委員の互選によって小西克哉委員が新委員長として選出された。

5. 審議番組

(1) ザ・ホール・ストーリー「移民増に揺れるオハイオ州スプリングフィールド」

日本語字幕版 (45 分)

The Whole Story with Anderson Cooper: Why Springfield?

放送日時 : 2025 年 2 月 8 日 (土) 14 時 00 分～

2020 年以来、多くのハイチ移民が流入するオハイオ州スプリングフィールド。

2024 年のアメリカ大統領選期間中、「ハイチからの移民がペットを食べている」というトランプ氏の誤った発言で混乱が起きた現地取材し、住民らの話を聞く。

トランプ氏の発言の影響や、ハイチ移民と現地住民の間にある障壁、双方が抱く思いとは。

<委員意見>

*アメリカ大統領候補や副大統領候補が「ハイチ移民がペットを食べる」などと発言する事に驚いた。権力を握る彼らよりも、合法的にこの町に住んでいるハイチの方が余程知的で穏やかに見えた。あの発言以前には差別はほぼ無かったのに、発言以降に差別が広がったことは恐ろしい。最後にハイチ人が「We have to live together」と語っており、良いエンディングだと思った。アメリカの不思議な断面を見せられ、大変興味深く感じた。

*オハイオ州の一つの町だけでなく、他州の町の状況や、移民の犯罪の実態など客観的な移民の全体像が欲しかった。いまや移民無しでは産業もビジネスも成り立たないスプリングフィールド。「あの一言以降」という言葉が繰り返し出てきたが、真実をもっとあぶりだしてもらいたかった。残念ながら、日本で得られる以上の情報が無かった。

*今まで地域社会の活性化に寄与してきた移民と共存してきたのに、「あの一言」でこれだけ状況が変わってしまう。今までも住民と移民の間では交通ルールや医療問題だけではなく色々な摩擦があったと推測されるが、都度乗り越えてきたのだろう。「対話が無いと恐怖が生まれる」という言葉があったが、そうだろうと思う。今後この町は昔の方が良かったと後戻りしていくのか、それとも踏みとどまって再び共に生活していく決断をするのか、是非続編を見たいと思った。

*オマー・ヒメネス特派員がリスペクトをもってハイチ移民に取材をしていると感じた。

被害者としてだけでなく、運転マナーの視点からなど、色々な角度からの声を拾っていた。特にマイク・デワイン オハイオ州知事のスプリングフィールドに対する想いやハイチ移民への深い愛情、そして共和党員でトランプ大統領候補を支持しながらも「この町の状況は不健全だ」と複雑な心境を述べていて、よくこの取材を受けたと思った。「人は変化を恐れる」という言葉が印象的だった。ハイチ移民が生きるために必死につたない英語をしゃべっている姿に刺激を受けた。

*とても見やすい番組だった。ハイチ移民の子供への愛情、仕事に対する熱意やアメリカに住めることの有難さが反移民層にも伝わればと思った。ハイチ移民の子供の増加により従来の授業や教師が彼らの英語教育に費やされてしまうことに反対の親の意見など、否定的な住民の主張もあると良かったと思う。様々なデータを示して双方の意見を取り上げて理解し合えると良いと思う。ハイチ移民が街中で「トランプ！」と叫ばれて恐怖を感じるということは切ない。この番組ではハイチ人の英語と仏語にも英語字幕がついていたので、アメリカ人でも聞きとりにくい英語の場合は英語字幕をつけるのだと思った。

*トランプ支持者や移民反対者へのインタビューを取り上げていなかった。彼らはCNNの取材を嫌がっていたのだろうと思う。マイク・デワイン オハイオ州知事がトランプ大統領候補に投票すると言っていたが、本来アメリカは政治家の信条で自由投票であるが、共和党における拘束力はこれ程強いのかと思った。CNNjでは日本語字幕や翻訳はどの視聴者層を対象に作業しているのかを知りたいと思った。

*取材に顔を出して本人の声で訴えかける力の強さを感じた。同時通訳よりも本人の言葉を字幕で表現するほうが圧倒的に強い印象が視聴者に伝わる。画面の左側にトランプ大統領候補の声、右側に現地の声を対比して表示することによって、視聴者に「あなたはどちらの意見を信じますか？」と問うスタイルが分かりやすかった。マイク・デワイン オハイオ州知事が移民受け入れには賛成だが、共和党員だからトランプ大統領候補を支持すると主張していたことが印象的だ。移民反対派の、カメラを向けた時の無視や拒否の映像を入れても良かったのではないか。ハイチ人の最後の言葉「全ての人には居場所がある、全ての人を愛している」が余韻をもって考えさせられた。好きな番組だ。

*おそらく反移民の住民は取材拒否だったのだろう。制約された時間内に全ての要素を盛り込むことは難しい。ハイチ移民の気持ちを知ってもらいたいという事がこの番組の主旨だと思う。番組のタイトルは「The Whole Story」だが、何の「The Whole Story」にするのか、だと思う。「カメラの前で話したくない」と顔を出さずに声だけ取材を受けていた人がいたので、文化的な衝突があったことを物語っていると思った。社会意識を画面でビジュアル化させることは難しい。昔はおだやかだった町が変わってしまった場面を映像

化するの難しいが、ハイチ移民から印象的な言葉を得られたことは政治的ドキュメンタリーとしてよく作られていると思った。

(2) ザ・ホール・ストーリー「LA山火事」日本語同時通訳版 (43分)

The Whole Story with Anderson Cooper: LA Burning

放送日時 : 2025年1月13日(月)10時00分～

発生から約1週間が経っても鎮圧の見通しがたたないロサンゼルス近郊の山火事。

壊滅的な被害を受け、数万人の住民が避難を余儀なくされた。

アンダーソン・クーパーが現地入り、最新状況などをレポート。消火活動中の消防員や被災者、遺族へのインタビューをはじめ、この大火災を引き起こした状況を分析。

カリフォルニア州とロサンゼルス市がこの前代未聞の緊急事態にどのように対処したか、そしてこの1週間が今後の生活にどのような影響を与えるかを検証する。

<委員意見>

*カメラマンの勇敢なカメラワークにより山火事の恐ろしさが良く伝わってきた。焼け跡の建物と周辺の道路の境目が鮮明だったのが印象的だった。

*レポーターが燃え盛っている現場ギリギリから、また、消防ヘリコプターも地上ギリギリのところを飛行していて決死の覚悟が伝わってきた。ただし、原因についての説明がなく、今後も不安を感じる。解明への何かしらのヒントが欲しかった。

*山火事真ただ中の苦しみが伝わってきた。日本ではあそこまで山火事に接近しての取材は見られないが、アメリカではレポーターの安全はどの程度担保されているのか。また、避難場所や、避難した3万人がどこに行ったのか、などの報道も無かった。トランプ大統領がカリフォルニア州知事を非難していたが、この先、どのように原因が究明されて、住民の意識が変わっていくかを知りたいと思った。

*丁度この時にアメリカに滞在していてCNNで一日中このニュースを見ていた。家が燃えてしまった有名なミュージシャンが何名も来日コンサートをキャンセルすることになった。番組に対する直接の感想ではないが、「ピアノは重くて、愛器であっても持って逃げられない」と友人たちの災難から再確認した。いつも感じることだが、今回は特にCNNの音響効果のセンスの良さを感じた。人口の音は極力抑えて、「パチパチ」と燃える音が聞こえて臨場感や怖さが良く伝わった。

*日本ではあまり見られない激しく生々しいレポートだった。ブルドーザーが高級車を一斉にどかしている場面が印象的だった。一方でパシフィック・パリセーズ以外の中・低所得者の火災現場はほとんど取材されていない。セレブは立ち直れるだろうが、生活困窮者の声は拾われていない。CNN以外のメディアも同様だ。また、過去にパラダイス市で起こった山火事のその後の映像が見られたことが印象的だった。今後、マリブやパシフィック・パリセーズが再建できるのか、再建すべきなのか、を考えさせられた。

*日本の芸術祭賞で高い評価を得た自然災害ドキュメンタリーがアメリカの放送番組を称えるアワードでは酷評だったことがある、「日本はウェットだ」という評価だった。日本では命を守る、避難につながる、減災できるための放送が求められる。CNNでは、アンダーソン・クーパーが現場から臨場感あるレポートをしていたが、ブレイキングニュースにも係わらず「避難しろ！」の言葉は一切聞かれなかった。CNNらしいと思った。日本の放送メディアでは、避難の呼びかけがないことは考えられないので、このような映像が流れたら「やめろ!」「どういう報道しているのだ!」と怒られるだろう。興味深かった。

*山火事の映像が延々と流れていた。マイクロ視点の映像ばかりで、速報としてのニュースとしては致し方ないと思うが、審議対象番組としての評価は難しい。LAの全体の地図や火災現場の説明が必要ではないかと思う。

*日本ではこれだけ裕福な人が不幸にあう災害報道は皆無で、高齢者が多い寒村で視聴者の同情を集める映像が多い。富裕層が火災保険料が上がって困ると言っていたが、年額2万ドル(350万円)の保険料と聞いても、一般人とかけ離れすぎているので、反応のしようがない。JCTVでこの番組を流す際には、場所や住民の年収など背景に関する補足情報があると良いと思った。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

ローカライズの手法について、引き続き検討を重ねる

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2025年4月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上